

全学FD/SD研修会 実施報告

第2回「BYODを活用した授業事例」

第3回「学生の学びを促進する授業設計」

第4回「新学習指導要領「情報Ⅰ」

必履修化に伴う高等学校での学びの変化について」

教育支援研究開発センターは、本学の教育の質に関する取組の一環として、全学的なFD/SDを推進するための研修会・ワークショップを開催しています。本号では、第2回から第4回までの全学FD/SD研修会について報告いたします。

第2回では「学習支援システムmoodle」や「オンラインツールMiro」などBYODを活用した授業事例を紹介、第3回では授業運営方法や授業手法等の授業設計の実践について学び、第4回では「情報Ⅰ」における学修内容等について学ぶことで今後の本学における教育内容への影響や対応について議論を深める機会としました。

教育プログラム支援制度 学内報告会 開催

8月8日（木）に教育プログラム支援制度学内報告会（令和5年度採択プログラム）を開催しました。

教育プログラム支援制度は、本学の教育の質向上を目指し、授業科目の開発・運営、正課の授業に係る基礎調査や試行的取組等のFD活動に対する支援を行う制度です。

学内報告会では採択された教員から、取り組まれてきたプログラムの実施内容や成果を報告いただきました。

当日は、当時学長の黒坂光先生をはじめ、20名の教職員が参加し、報告された先生への質問も活発に行われました。

【報告者とテーマ】

●生命科学部 加藤 啓子 先生

「[大学院の学び]を「知」の未来と社会実装につなげる」

Contents

p2

〈FD/SD活動の推進〉

・令和6年度第2回全学FD/SD研修会
「BYODを活用した授業事例」開催

p3

・令和6年度第3回全学FD/SD研修会
「学生の学びを促進する授業設計」開催

p4

・令和6年度第4回全学FD/SD研修会
「新学習指導要領「情報Ⅰ」
必履修化に伴う高等学校での学びの変化について
～今後の大学教育への影響を見据えて～」開催

令和6年度第2回全学FD/SD研修会 開催

BYODを活用した授業事例

講師：西道 啓博 先生 (理学部 准教授)
講師：田中 里奈 先生 (文化学部 准教授)



令和6年度第2回全学FD/SD研修会

BYODを活用した授業事例

2024
9/4 水
14:45~16:00

<場所> S301教室(サボタリウス館3階)
<講師> 西道 啓博 准教授(理学部) / 田中 里奈 准教授(文化学部)
<申込> 事前に申込フォームよりお申し込みください
<https://forms.office.com/r/0d9W6d9V2S>
申込期限: 8月28日(水) 締切

※施設から学業的な目的で撮影するために、学生自身が所有するノートパソコン等を必要とし、BYOD (Bring Your Own Device) を活用した授業への参加が希望されます。今回は、本学教員を講師とし、Miro や moodle 等のオンラインツールを積極的に取り入れている授業事例をご紹介いたします。

京都産業大学 教育支援研究開発センター(4号館4階) open 月 金 / 9:00-16:30
〒605-8502 京都市北区上院敷本山 075-705-1729
kyokai-shien-center@kaiu.kyoto-u.ac.jp

9月4日(水)、2024(令和6)年度第2回全学FD/SD研修会を開催しました。本研修会では、「BYODを活用した授業事例」をテーマに、学内の先生方による講演を行いました。今回の研修会のテーマは、2024(令和6)年度4月に新たに発足した教育支援研究開発センター企画委員会が初めて企画したものであり、企画委員が全学のBYODを活用した授業事例を情報収集し、BYODを積極的に取り入れている理学部 西道 啓博先生、文化学部 田中 里奈先生を講師として選定しました。理学部の西道先生は、オンラインツール「Miro」を座学授業にどのように活用しているかについて講演いただきました。文化学部の田中先生は、学習支援システム「Moodle」の多様な活用実践事例と非公開のGoogle Mapの活用について講演いただきました。参加者は、講演中に随時質問を受け付けることができ、実践的な知識を深める機会となりました。当日は、対面およびオンラインで57名、オンデマンド視聴者22名が参加しました。

講演要旨

・西道 啓博 先生

講演では、座学授業でオンラインツール「Miro」を活用した座学授業の実践事例について解説されました。西道先生は、昨年度第1回全学FD/SD研修会「アクティブ・ラーニング～オンラインツールを活用した授業事例～」に参加され「Miro」について学び、ご自身の「理論・座学」の授業に適用されています。

「Miro」は、授業資料を一元的に蓄積・管理する場として活用でき、学生が必要な情報に即座にアクセスしやすくなります。また、授業の流れが視覚的にわかりやすくなるため、学生の集中力が高まり、理解度も深まります。

さらに、「Miro」の機能を使うことで、学生がリアルタイムで質問やコメントを付箋のように投稿できる環境を整えることができます。これにより、授業の双方向性が高まります。

・田中 里奈 先生

講演では、学習支援システム「Moodle」の多様な活用実践事例について解説されました。具体的には、Moodleのフィードバック機能やグループ機能を活用し、学生の理解度を確認しながら授業を進める方法や、グループワークの効率的な運営方法について解説されました。フィードバック機能は、学生からの質問やコメントをリアルタイムで収集し、理解度を確保するためのアンケートやクイズを実施することができるものです。グループ機能では、学生をグループ分けして異なる資料を共有したり、グループごとに課題を提出することが可能です。

その他、非公開のGoogle Mapを活用して、学生のフィールドワークの報告をマップ上で共有する方法についても解説されました。



参加した 教職員の声

- ・Miroが授業でも使えるとよいなと考えており、具体的な機能を知ることができとても有益だった
- ・Moodleの機能を最低限しか使っていなかったため、グループ機能などこの秋学期から使ってみたいと思った

新学習指導要領「情報Ⅰ」 必履修化に伴う高等学校での学びの変化について ～今後の大学教育への影響を見据えて～

森本 岳 先生 (京都産業大学附属高等学校 情報科主任教諭)



10月18日(金)、2024(令和6)年度第4回全学FD/SD研修会を開催しました。本研修会では、「新学習指導要領「情報Ⅰ」必履修化に伴う高等学校での学びの変化について～今後の大学教育への影響を見据えて～」をテーマとして、本学附属高等学校情報科主任教諭である森本 岳先生を講師として講演を行いました。

2022年度の高等学校入学者から新学習指導要領が適用されており、「情報Ⅰ」の必履修化等、時代の変化にあわせた高等学校の教育改革が進行しています。2025年度には新課程で学んだ高校生が本学に入学することを見据え、入学者の学修内容やスタイルの変容(デジタル化)等に本学の教育も対応することが求められています。

本研修会では、新学習指導要領の中でも「情報Ⅰ」の必履修化に焦点を当て、「情報Ⅰ」における学修内容等について講演いただくことで、今後の本学における教育内容への影響や対応について議論を深める機会とすることを目的に開催しました。当日は、対面およびオンラインで77名が参加、オンデマンド視聴者61名が参加しました。

講演要旨

新学習指導要領の導入に伴う高等学校での学びの変化について解説されました。講演では、高等学校における教科「情報」のカリキュラムの変遷、指導要領改訂による初等・中等教育での学びの変化やその影響、附属高等学校における「情報Ⅰ」、「社会系情報Ⅱ」、「理工系情報Ⅲ」での学びについて解説されました。

新学習指導要領により必履修化となった「情報Ⅰ」は、「情報デザイン」・「データの利用」という要素が加えられ、パソコン操作等の技術習得を目指すのではなく、問題を客観的・科学的に捉えるための方法、解決するための手段、効果を検証するための方法を学ぶことが重視されています。

附属高等学校では、理論を学ぶ「情報Ⅰ」と実践の場である「基礎探究」を組み合わせた授業が週3時間行われています。生徒は、「課題研究ルーブリック」に基づいて、「リサーチクエスチョンを設定」「言語化」「文献調査による先行研究」「独自調査(アンケート・実験)」「研究結果のプレゼンテーション」の流れで身近な興味・関心から選んだテーマに基づき課題研究に取り組んでいることが、実際の生徒のプレゼンテーションの様子とともに解説されました。また、生徒は、個人での課題研究での経験を活かしながら、後半はチームでビジネスアイデアを考えて企業に提案をするインベティブプレゼンに取り組む様子も解説されました。

情報の指導要領より

事象を情報とその結びつきで捉え、
複数の情報から新たな価値を見出す
「情報」の視点

パソコン操作を学ぶ教科ではない。



参加した 教職員の声

- ・実践例を多く示していただけて、非常に分かりやすく拝聴できました
- ・学部初年次教育の中身やレベルを見直すべきかもしれないと感じました
- ・単なる「情報」科目にとどまらず、探究学習との相乗で、大学での学びにそのままつながるようなレベルの高い教育をされていることがわかりました
- ・これからの高等教育を考えるには、初等・中等教育の変化にも注目することが必要だと感じます